

家園

字体作者：周慧珺

第29号



特定非営利活動法人
中国帰国者・日中友好の会
〒110-0016 東京都台東区台東 3-35-7
ペガサスミシンビル1階
TEL : 03-3835-9357 FAX : 03-3835-9358
<http://jc-yuko.com/>



日中國交正常化 50 周年記念コンサート

目 次

★ 写真（日中國交正常化 50 周年特集）	2
★ 日中國交正常化 50 周年記念コンサートにてのご挨拶	3、4
★二つの祖国 & 安倍元総理を追悼	5
★ある二世の履歴書（連載③）	6
★一本の楓	7
★活動記録・お知らせ・編集後記	

活動記録写真

(日中国交正常化 50 周年記念コンサート特集)



司会： 張競 大杉国友



朗読劇：孤児の涙



中国古典舞踊：桃花譜



樂器演奏



合唱



日本舞踊



太極扇



デュエット

スピーチ抜粋

(NPO 法人中国帰国者・日中友好の会 理事長 池田澄江)



今から 50 年前、当時の日本の総理大臣田中角栄さんが中国を訪問されました。そのニュースを聞いた時、嬉しくて飛び上がりたい気持ちを必死にこらえたことを、今も鮮明に覚えています。その後、日中交正常化が実現し、残留孤児の帰国ができるようになりました。

しかしこの 50 年間を振り返ってみれば、日中関係は良好とは言えない状態が続いています。「日中友好」を提唱して設立した弊会にとっては、残念でなりません。

「過去は変えられませんが、未来は作られます」。いま、われわれのできることは、日中両国民のひとりでも多くの人に相手国を分かっていただくために、微力ながら草の根の交流を努める事ではないでしょうか！

日本と中国は、色々な面で異なる国であることは、確かです。だからと言って、相手を貶めたり、粗を探したりすることは、決して自国の繁栄に役立ちません。若者たち、特に孤児の2, 3世は、中国に関する様々な情報を鵜呑みしないで、自分の目で真の中国を確認して、そして自分のルーツに誇りを持ってください！

これからの 50 年、われわれの祖国と故郷である日本と中国は、国民同士が共に努力して、互いを認め合い、高め合える関係になってほしいです。

(一般社団法人 日中協会会长 野田毅先生)

過去の事を思い出すと、特に国交正常化の時の周總理が大変ご苦労になさった、もちろん田中先生の決断力もすごかった。今思えば、当時は文革の真最中で、中国における厳しい環境の中で、日本との国交を正常化する、そして、残留孤児の皆さんが何とか祖国に戻れるような環境を作ろう、という周總理の思いに、改めて感謝を申し上げる次第でございます。



先程池田さんが話されましたように、日中関係には山あり谷ありで、大変厳しい経験をして来られたと思います。まず、日本側も受け入れ態勢が不十分でありました。もっと早く、20 年早く帰国できれば、言葉の壁も随分違っていたでしょう。私は皆さんと同じ世代で、もし同じ立場だったらと考えると、居ても立っても居られません。何とかして、皆さんに「日本に帰ってきてよかったです」、と思っていただけるように、そして、日本と中国、二つの祖国で胸を張って日中友好の懸け橋として活躍していただけるような環境を整備するのが政治家の仕事だ、という思いで、手伝わせていただいております。おかげで、特別支援政策は議員立法でできました。そのような喜ばしいことだけではなく、感動的なこともあります。2008 年、四川省で大地震が発生した時、皆さんには自分でコツコツ蓄えたお金を出して、復興のために寄付をされました。そのことは、中国政府から見ても、多くの日本の方々から見ても、感動的な行動だと思います。

それから、13 年前 11 月に北京の中南海で温家宝総理と面会しました。もともと人民大会堂で面会する予定でしたが、急遽中南海に変更され、温家宝総理自らが案内して下さいました。私の人生にとっても、忘れられない一幕で、有難い思い出です。

(中華人民共和国特命全権大使 孔鉉佑様からのメッセージ、聂佳参事官が代読)

本日、「中日国交正常化 50 周年記念コンサート」の開催にあたりまして、中国駐日本大使館を代表して、心よりお祝い申し上げます。今回の記念コンサートにご尽力下さった中国帰国者・日中友好の会に心より感謝を申し上げます。中日国交正常化 50 年來、中日関係は並々ならぬ道程を歩み、糾余曲折を経ながら、実り豊かな成果を収めました。両国の互恵協力が絶えず推進され、人員文化交流が盛んになり、両国の国民に利益をもたらしたのみならず、アジアと世界の平和及び発展のために、積極的に貢献しました。



中国帰国者・日中友好の会の皆様は若い頃から中国と結ばれ、様々な困難を乗り越え帰国されました。そして中日友好事業に積極的に取り込み、両国の関係改善と発展に独特な役割を果たされてきました。来年、中日両国は平和友好条約締結 45 周年を迎えます。皆様が引き続き日中友好の信念を堅持し、中国と中日関係の発展に关心を寄せ、特有の絆と懸け橋を生かし、両国の国民の相互理解と友好を促進するために、新たにご貢献をされるよう期待しております。

(元国土交通大臣、公明党常任顧問、太田昭宏先生)

漆原さんを含め、私達は池田さんと一緒に様々な行事を行って頑張ってきた、と思います。日中関係は良い時もあり、悪い時もあります。波風の中で、皆さんのような団体の民間交流がささえて、今日に至りました。

昨日、日中首脳会談が実現しました。それは新しい時代の素晴らしい関係を築くことを強く期待しています。私達も皆さんと一緒に、いい日中関係、そして、さんは日本社会の中で、「いい人生だったな」と言っていただけるように、尽力します。



(東京都議会議員 中山信行先生)



我が党の創立者池田大作先生が「日中国交正常化」をいち早く提言しました。今日もなお中国と日本、国同士、そして国民同士の友好が深まることを願って活動しています。
中国から戻られた皆さまが、中国と日本、二つの祖国の共々の発展のために願っている気持ち、そしてその夢が叶えるために、私は仲間と共にこれからも頑張ってまいります。

(弁護士 河合弘之先生)

私は1944年4月18日に、当時の新京で現在の長春で生まれました。まさにここにいる皆さんと同じ年で、もう少しで、中国に留まって、残留孤児になっていたかもしれません。なんとか幸運で日本にかえって来られました。「池田さんが強制送還かもしれない」と朝日新聞の記事を見た時、私としては、この方を支援し、助ける義務があると思い、残留孤児の支援運動に入りました。その後、いろいろ絶余曲折があって、結局国家賠償訴訟を提起しなければならなくなるまで追い込まれました。その経過は、皆さんのが当事者としてよくご存じの事です。



今日は感謝の集いということなので、一番感謝すべき人は誰ですか、と考えています。一番は、やはり国家賠償訴訟を全国的に組織した弁護団の方達で、小野寺先生がトップとする全国弁護団の方々ではないか、と思います。同時に、政治的に仕上げてくださった野田先生をトップとした与党PTの方々にも一番に感謝すべきだ、と思います。その方々の尽力によって、皆さんの日々の生活が困ることなくできるようになりました。「衣食足りて礼節を知る」という言葉がありますが、衣食が足ったら幸せになるかと考えた時、そうではない、と思いました。出した結論は、今日本語を勉強して、仕事しよう、というのは無理だろう。同じ境遇の皆さんには励まし合い、慰め合いながら、楽しく生きていくことが大事だ、と考えました。そのために、皆さんと「残留孤児の家」を作ることを進めました。今日のコンサートは「中国残留孤児の家」があることの成果だ、と思います。

もう一つ皆さんの生き甲斐になるのは、単なる自分たちの幸せのためではなく、二つの祖国、日本と中国の民間外交のための架け橋になることです。

(中国残留孤児国家賠償訴訟全国弁護団団長 小野寺利孝先生)



先ほど、河合先生は全国訴訟の戦いの中、弁護団と政治の役割について触れましたが、なんといっても、関東原告団の早期決起、そして全国の孤児に呼び掛けて、人間の尊厳を取り戻すために、国の棄民政策に断固として抗議し、戦う、と団結されたことは勝利の法則であったことを確認したいと思います。

皆さんの戦いは日本国内だけではありませんでした。そのことを証明したのは、皆さんの中国への「謝恩の旅」の時、当時の温家宝総理は中南海へ招き、「皆さんには二つの祖国があり、それを繋ぐ貴重な存在であり、平和のために、これからも尽くしてほしい」と訴えられました。

今年日中国交正常化50周年です。50年前の日中共同声明、さらに三つの重要文書を含め、日中関係を規定した文章が4つあります。其の中心的なテーマは日中不再戦の誓いです。二つの祖国を持つ残留孤児の皆さんこそ、日中不再戦の誓いを自らの体験を踏まえ、自らの血肉にして訴えることができる貴重な存在であることを自覚して、厳しい日中関係の中で、なんとしても「日中不再戦」を追求し続け、実現させていただきたい、と思います。

(創価学会理事長 長谷川重夫先生)

創価学会初代会長牧口常三郎先生が教育家で、中国の留学生に地理学を教えていました。二代目会長戸田城聖先生には私に中国文化、中国の偉大な歴史を教えていただきました。三代目会長の池田大作先生は中国と日本が永久に仲良く、という思いで国交正常化を提言され、金の橋をしっかりと作っていこう、と提案されました。



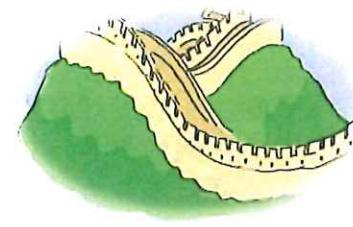
その三代会長の心は、その偉大なる歴史を持った中国と日本はしっかりと金の橋を更に強くしていこう、と私達は若い人に訴えております。

苦労した人は幸せになる、という思いで、皆様にも苦労した分を幸せになることを期待しています。

ふたつの祖国

当我第一次聆听“我和我的祖国”（张黎词，秦咏诚曲）这首歌曲时，就被优美的旋律所吸引，也被那深情的歌词所打动。它所抒发的对祖国那深沉的爱引起了我内心强烈的共鸣，也想唱出我们孤儿对祖国、对故乡的爱。于是写一首歌的冲动就油然而生。2021年7月，把蕴藏在心里多年的感情，参考“我和我的祖国”这首歌的词曲旋律，写出了下面“两个祖国”这首歌词。

我有两个祖国，日本和中国，无论我走到哪里，都唱出骄傲的赞歌。我赞美富士山樱花，我讴歌长江，黄河辽阔。神州大地、海岛东瀛没有大海相隔。我最亲爱的祖国，我愿是那大海上的桥，不论狂风暴雨，惊涛骇浪任你来往穿梭。我有两个母亲，日本和中国，无论我站在哪里，都听到你的脉搏；每当那国歌响起，我总是久久泪花闪烁；母亲的微笑，让我幸福快乐，心花开万朵。我最亲爱的母亲，看到你从我桥上过，携手并肩，昂首阔步，高唱友谊之歌，我最亲爱的祖国，我是那大海上桥一座，千秋万代，畅通无阻飞翔着和平鸽。



白滝幸子

私が最初に「私と私の祖国」の曲を聴いたとき、すぐその美しいメロディーに魅了された。国を愛する気持ちに満ちている

歌詞に感銘を受け、強く共感した。祖国と故郷への愛を歌いたくて、歌詞を書く気持ちが抑えきれなくなった。2021年7月、「私と私の祖国」を参考にして、胸に秘めていた長年の感情を、下記の「2つの祖国」という替え歌にした。

私には2つの祖国がある。その名は日本と中国。どこへ行っても誇りを持って贊美歌が歌いたい。富士山、桜、そして長江、黄河の雄大さをたたえ、神州の大地と東瀛の諸島を歌う。私は最愛の祖国のために、海にかける橋になりたい。激しい嵐、高い波にもおそれず、人々に自由に往来させる。私には2人の母親がいる、日本と中国、どこにいようと、その鼓動を感じられる。国歌が流れるたびに、私は涙ぐむ。母の笑顔は私の幸せの元、私の最愛の2人の母よ、あなたたちを私の肩に乗せ、手をつながせたい。手をつないで、友情の歌を歌ってもらいたい。私の最愛の祖国のために、私は大きな橋になり、平和の鳩を飛ばせたい。

安倍元首相の国葬に参列しました

昨年9月27日、私は全国の中国残留孤児の代表として、安倍晋三元首相の国葬に参列させていただきました。

安倍元首相に対する国民の評価はまちまちですが、私は一人の残留孤児として、残留孤児の支援策を作り、国家賠償請求訴訟を政治の力で解決して下さった安倍元首相に、深い感謝の気持ちを持っていました。

思えば、裁判を起こす前年の22年前、残留孤児は老後の支援策の議員立法を求めて、113万筆を超える請願署名を国会に提出しましたが、審議もされないまま不採択になりました。ある有名な議員の秘書は私たちに「不満だったら中国に帰れ」と暴言を吐きました。そんな時代でした。

2002年12月、全国の残留孤児は国賠訴訟を起こし、多くの国民が裁判を支援してくれましたが、千人以上が原告になっていた最大の東京の裁判は、2007年1月30日、不当な敗訴判決を受けました。ところが、その判決の翌日、安倍元首相(第一次安倍政権)が残留孤児の全国の代表を官邸に招いて、私たちをねぎらい、夏までに支援策を作ると約束してくれたのです。そして2007年のうちに支援法が成立し、裁判は政治解決したのです。

これは、多くの国民の皆さん支援や、弁護団の先生方、また野田毅先生をはじめとする与党PT議員の方々のお力のたまものですが、安倍元首相の決断がなければ実現できなかつたことです。支援策によつて、私たちは老後の心配をすることなく、日本に帰ってきてよかったですといながら生活することができます。従つて、私たち残留孤児にとって、安倍元首相は恩人なのです。

昨年7月、安倍元首相は衝撃的な亡くなり方をしました。その背景には、さまざまな事情があるようですが、私は安倍元首相に人生を助けていただいたことを生涯忘れず、心からご冥福を祈りたいと思います。

(池田 澄江)



ある二世の履歴書(連載③)

(文・翻訳：小野 隆輔)

その後、中国でのオリンピック開催をきっかけに、日本でも金属スクラップの需要が大きくなり、小川の事業は順調に進んだ。5年後に東京都品川区と墨田区にビルを一棟ずつ買い、賃貸事業を始めた。家庭でも上の子供二人は中国で高校卒業後、アメリカへ留学させた。

小川は48歳の時、父親の就籍を手伝って頂いた河合弘之弁護士とお会いした。父の就籍記録の弁護士欄に記載されていたので、河合先生の名前は随分前から知っていた。もしいつか先生に逢えたら、感謝の気持ちを伝えたいと思っていた。先生の事務所を訪れた時先生はとても気さくで優しかった。自分の気持ちを直接伝えることができて嬉しかった。その後先生のご紹介で日中友好の会を知り、会員になり、多少貢献させて頂いた。日中友好の会で大勢の二世の方に出会い、また一世の方と二度ほど中国へ報恩の旅に参加させて頂いた。

50歳の時、千葉県野田市で新たに工場の跡地を取得して廃プラスチック再生事業を始めた。丁度その頃から新型コロナウイルスが流行し始めた。銀行への返済などきつかったが、社員と一丸となって何とか会社を立て直して頑張って来られた。

2022年4月にやっと工場が本格的に稼働し始めた。まだコロナは収まっていないが何とかやっていけるようだ。

2023年には、小川は新たに新営業所を東京都足立区鹿浜で設立するプランを立てている。日中戦争によって皮肉にも小川のような孤児二世がたくさん生まれた。彼らにとって日本という国は中国の敵国であって、親の祖国でもあった。複雑な感情を抱きながら言語と風習も違うこの日本でもがきながら生活している。

小川のような幸運に恵まれた人ばかりではないと、彼も十分承知している。彼は事業に邁進しながら恵まれない一世と二世の方に手を差し伸べ、日中友好の架け橋にもなることを心に決めている。(終)

中国残留日本人の二世は、年齢が30歳代から70歳代と幅広く、生活状況も様々です。小川さんのような成功者がいる一方、日本社会の底辺に置かれている人もたくさんいます。それが原因で二世全体に共通する「二世問題」は見えにくくなっています。

どんな政策の制定も国民の理解が不可欠であります。そのために、帰国者はまず二世の「共通の問題」をみつけだしてから、世論に訴え、国民の理解を頂くことが何よりも重要ではないでしょうか。

之后，由于中国举办了奥运会，日本也对金属废料的需求增加，小川的项目得以顺利进展。五年后，他在东京品川区和墨田区各购买了一栋大楼，并开始了租赁业务。家里的两个大孩子在中国高中毕业后又送去美国留学。

由于机缘巧合，小川在48岁时遇到了河合弘之律师。小川之所以知道河合律师，是因为很久以前他的名字就出现在父亲的就籍记录的律师栏里。小川一直想着如果有机会遇到河合先生时，一定表达自己的感激之情。河合律师非常友好和热情，邀请他参观了自己的办公室。后来，在河合律师的介绍下，他成为日中友好之会的成员，并为会里活动出了一份力量。在日中友好之会里，他也遇到许多二世，并参加了两次到中国的报恩之旅。

小川50岁时在千叶县野田市收购了一座新工厂的旧地，并开始了废塑料回收业务，当时新型冠状病毒开始流行，对经营有很大影响，偿还银行贷款也有一些困难。但员工同心协力克服种种困难。在2022年4月，工厂终于开始进入正常的运营轨道。

2023年，小川计划在东京足立区鹿浜设立新的销售办事处。具有讽刺意味的是，许多孤儿二代人出生在中国，对他们来说，日本是中国的敌人，也是他们父母的祖国。他们怀着复杂的情感，生活在语言和习俗都与中国不同的日本。

他很清楚，并不是所有的人都像自己那样幸运。他暗自决定，在发展事业的同时也尽量向残留帮人第一代和第二代伸出援手，并成为中日友好的桥梁。

一本の楓

白山 明徳

新雨后，晚秋至。我散步在公园里，看到一棵枫树，枝杈断损，树干下部或许是多年前被什么撕裂过，体无完肤，连树皮都斑驳不堪，甚至树芯也渐已发黑。这衰败的树让我不解，树啊，你屈居一处，曾经有过怎样的故事？阳光之下，抬头让人惊叹，树冠竟绽开红叶片片。鲜红枫叶在人们心目中更是一种精神象征，常用它象征坚毅。唐朝诗人杜牧写过：

“停车坐爱枫林晚，霜叶红于二月花”。金秋时节，这棵有些丑陋的树，却托起恰到好处的红。隽刻着生命的印记，承载着岁月的风尘，昭示着年轮的走向。

在这被疫情搅乱的日子里，乏味而迟钝的我，邂逅到近旁一棵树给予的启迪和力量，生活告诉，因为有热爱的东西，心中可存暖意。这回惊诧的是，在不经意无聊之时，我发现这样一棵树，它其貌不扬，矮小扭曲，伤痕累累。不如杉树秀美，得到称赞；不如松树含翠，植于富家门扉；不如银杏叶黄，供人欣赏、留步；不如樱花绽放灿若云霞、赢得众人赞誉。

这棵枫树相比见拙，却拥有一种深刻印象，能独守角落，无意高下相争，扎根泥土，也有勇气活着迎接新的一天。我相信，如果再没意外，不会被人为砍除丢弃。这棵枫树一定会挺立生存，以不屈的力量，静静地接受着暑往寒来。触景生情三年多了，谁都疲惫、困惑、烦恼，张张脸上多了一副遮住风采的口罩，甚至幼儿园的小朋友也是带上大大的口罩，少了许多欢笑和歌声。疫苗注射、自主检测、隔离或入院，多了一波又一波的感染高峰到来，今后真的难以预测。科学家似乎也没有灵丹妙药，总之，这样特别的时代，让我们每一位都赶上了，体验到了。

“常将有日思无日，莫待无时思有时”。疫情还在延续，不知哪天是个头，就剩下每日早上网络微信中就有些朋友不知从什么店铺调来的心灵鸡汤“耐得往，伤得起、拿得下，放得起，看得准，失得安，活得透”。

除了感悟，于我而言，安和怡然，愉悦有趣，亲近自然，就像一棵树，能安逸灵魂于净土，少些烦恼，拥有天然若水的平静。领略朗朗鲜活的自然风光。活着不易，除了疫情，外面还有残酷的战争、未卜的事态。试问闲情都几许？日常不忘择一事为乐，因为岁月不饶人。枫树叶红精彩，也仅仅十几天左右，人何尝不是如此，谁也不能保持芳华永驻，有高光的时刻，就会有落幕之时。这是客观规律吧，庄子有言：“知忘是非心，心之适也”。忘记过去的是是非非，心情才会舒服。人生路上所见皆是风景，才可遇见不期而来的美好。



秋雨に木の葉が黄色や紅色へと模様替えをした。公園を歩いていると、一本の楓が目についた。それは、枝が折れたり傷ついたりしており、幹の方はおそらく何年も前に何かで傷つけられたのだろうか、樹皮が剥れ、無数の痕が残り、樹心まで黒ずんでいる。この朽ちかけた樹を見ていると、どんな物語があったのだろうか想像してしまう。しかし、見上げると、太陽の光に照らされ、紅葉に彩られた樹冠に驚かされた。

紅葉は、中国では古くから一種のシンボルとなっており、しばしば忍耐の象徴として使われている。唐の詩人、杜牧は「車を停（とど）めて坐（そぞろ）に愛す楓林の晚（くれ）、霜葉は二月の花より紅なり」と詠んでいる。この秋、このちょっと不格好な樹が、見事な紅色に染まった。この樹は歳月を耐え、年輪を刻み、不屈の姿を見せてくれた。

疫病が蔓延し、落ち着かない世の中に、この樹が与えてくれた希望、覚悟、そして命の強さ。人間は愛するものがあるからこそ、心に温もりが保てる。今日、ふとした退屈しのぎに、こんな樹を見つけて驚いた。見栄えのしない、背が低くねじれくれた、傷だらけの樹である。杉のように美しくはなく、松のように常緑でもなく、銀杏の葉ほど眩しくなく、咲く桜のような輝きはない。この楓は、高さを競うつもりもなく、ひたすら大地に根を張り、隅っこで孤独の日々を送るだけだった。不撓不屈というのはこういう事だろう。よほどの事が無ければ、この樹は人の手によって切り捨てられることはないと思う。この楓の樹は、運命を静かに受け入れながら、我慢強く、確実に成長していく。

コロナの蔓延はもうすでに3年になる、困惑、疲れは常に付きまとう。子供できえマスクで笑顔が隠れている。接種、検査、隔離は新しい日常になり、感染の波が次から次へとやって来る。未来は誰にも予測できない。科学の進歩も妙薬をもたらしてはいない。この特別な時代を私たち一人ひとりが経験している。

「常将有日思無日，莫待无时思有时」。平和な時こそ困難や危険に備えて準備を怠らないのが重要だ。パンデミックはいつ終わるとも知れない。毎朝友達がWECHATで送ってくれるちょっとしたいい話の中に「得意淡然、失意泰然で豁然に生きる」というのがあった。今の私にとって、この樹や水の様に、自然と共に平和で心穏やかに暮らすことが何よりだ。しかし生きることは容易ではない。疫病、戦争、悲惨な事件の報道ばかりだ。平穀を求めて、自分で自分を癒すしかない。美しい紅葉も、10日余りの精彩だ。人もまた同じ。どんな素晴らしい劇でもいつか幕が降ろされる。自然の流れは誰も止めることができない。莊子の言葉、「知忘是非心、心之適也」のように、悪いことを忘れれば良い気分になる。そうして人生という道を歩むうちに、不意に美しい風景に出くわすかもしれない。



祝：新春快樂 万事如意



認定NPO法人「中国帰国者・日中友好の会」活動記録（令和4年9月～令和4年12月）

9月～12月	大連外国语大学崔学森教授が研究の為に来所
9月7日	「時事通信」の佐藤大介記者が来所、河村忠志を取材した
9月～11月	大久保真紀（朝日新聞）記者の孤児配偶者の取材に協力
9月27日	安倍晋三元総理の国葬に、池田理事長が孤児の代表として参列
9月30日	「上海大学日本校友会」及「一般社団法人 日中協会」、「一般社団法人 日本上海同郷会」共催のコンサート『未来への響き』に、本会音楽教室のみなさんが客演した
9月30日	「読売新聞」朝刊に、宮崎慶文に関する記事が掲載された
10月	中国黒竜江出版社に残留孤児に関する資料を提供
11月18日	「日中國交正常化50周年記念コンサート」が無事に行われ、成功を収めた
11月	土屋雄一郎氏に残留孤児に関する資料を提供
12月2日	「社会理論・動態研究所」所長猪股祐介様が来所された

お知らせ

足立区帰国者交流会開催
日時：2023年2月4日（土）
13時～16時
場所：梅田地区学習センター
3階第一学習室

第15回総会開催
日時：2023年6月17日（土）
13時～
場所：NPO法人
中国帰国者・日中友好の
会
B1F活動室

《家園》編集委員（第29号）

白山明徳	河村忠志
張 狄	孙 妮
春 晓	祖父江 安紀子
写真撮影	二田口国博 入澤美和子
レイアウト	松本莉恵

編集後記

人生啊，哪有什么两全之策！短短百年，不过是叫人取舍罢了。手持烟火以谋生，且停，且忘，且随风；且行，且看，且从容！人字有两笔，一撇写前半生，一捺写后半生。前半生写执着，后半生写释怀！生活，一半烟火，一半清欢，一半清醒，一半释然，不念过往，不畏将来。愿今后的日子，阳光清澈，世事皆温柔！

♪会報のバック・ナンバーお読みになれます♪



よろず相談窓口：

平日10:30～16:00
TEL:03-3835-9357

日本語・中国語対応